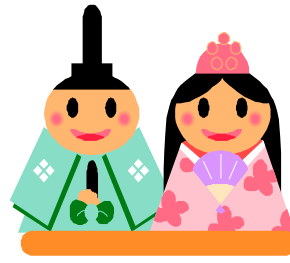


# それゆけ！ としよかんだより



2011年3月

第47号

発行所  
高野山大学図書館  
閲覧室

【第十三回】 図書館長 武内孝善

## 古典籍逍遙

### 『武州登山帳』四冊

#### 【書誌データー】

袋綴装、四冊、たて28.3センチ、よこ21.7センチ、楮紙、紺色表紙、第一冊は表紙とも93紙、第二冊は表紙とも63紙、第三冊は表紙とも111紙、第四冊は表紙とも73紙。龍光院寄託本。

これは、武州、現在の埼玉県を中心とする地域から高野山に登山し、龍光院に宿泊したひとたちを記録したものです。第一・三冊は埼玉・入間・男衾・秩父の四郡からの登山者を、第二・四冊は幡羅・高麗・榛沢・比企・児玉の五郡からの登山者を記します。また、第一・二冊は文政六年(1823)正月から天保三年(1832)十二月までの10年間を、第三・四冊は天保四年(1833)正月から嘉永四年(1851)十二月までの19年間を収録しています。表紙に「三冊之内」とあり、小口の番号が「八十二」から「八十四」に飛んでいるので、本来はあと1セットあったと考えられます。

いまから30年ほど前までは、宿泊する寺院をきめないで高野山に参詣された方は、宿坊案内所に行き「〇〇県から来ました」と告げると、「〇〇県の所縁坊は△△院ですよ」といって、その県と密接な関係を有してきた宿坊を紹介されていました。この所縁坊の制度がいつからはじまるかは詳らかにしえませんが、その淵源はおそらく室町時代にまで遡るものと考えます。つまり、戦国武将が高野山の諸寺院と師檀関係を結んだことにはじまり、この寺檀制度は江戸時代、全国の諸大名と高野山の諸寺院とのあいだに受けつがれ、ある地域と高野山のある特定の寺院とのあいだに緊密な関係が生まれ、それが所縁坊の制度として明確な形をとるようになった、といえましょう。高野山の諸寺院には、このような登山帳がたくさん所蔵されていると思われます。今後、それらの多くが紹介されますと、高野山がわが国のすべての地域と密接なかかわりを有していたことを具体的に知りうると考えます。

記述は、「武州埼玉郡羽生領下手子林村/新直吾郎殿 小嶋小平治殿/右式人未正月五日御登山」といった形式で、出身地・氏名・登山した日付からなります。文政六年(1823)の一年間に龍光院に宿泊した人を、その出身の郡と月別の数を一覧表にすると、つぎのようになります。

月郡	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
埼玉	18	50	0	3	5	3	5	0	4	0	4	0	92
入間	12	13	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	27
男衾	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
秩父	8	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
幡羅	13	3	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	22
高麗	10	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
榛沢	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
比企	29	53	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	84
合計	90	135	0	8	7	3	6	0	4	2	4	0	259



この表から、①武州の八つの郡から1年間に259名が高野山に参詣していたこと、②1・2月で全体の約87%を占めていたこと、が明らかとなりました。①からは、膨大な数の登山者があったことが推測できます。②の数字は、一体何を意味するのでしょうか。多くの人が農閑期でしかも年のはじめを選んで登山していた、と言えるかもしれません。詳細は、後日を期すことにいたします。

### 図書館の蔵書印(3) 図書館員 木下浩良

明治19年(1886)、本学は古義大学林となり、真言宗古義派全体の最高学府となりました。古義派の寺院住職になる者は、同林への入学を義務付けたのでした。入学後は、学業の進捗により、初級から九級までに分かれていて、九級卒業者は全科卒業生といって年間数名を輩出するだけでした。この全科卒業生は、いわばエリートでした。将来は金剛峯寺座主となり、東寺長者候補にも登りつめると学則ではうたっています。大半の学生は、3・4級卒業をもって退学して、権律師・律師の僧階を得て地方寺院の住職となったのです。

明治29年(1896)、高野山は独立を主張するようになります。それは、この当時の真言宗管長は東寺長者であり、高野山は智山・豊山と京都の各本山とともに長者候補寺院でしかなかったからです。

明治32年(1899)の真言宗宗会で、各山各立管長別置が議決され、翌年には真言宗高野派管長が誕生します。古義大学林は、高野山と同調して各山分離に賛成した、仁和寺・大覚寺・醍醐寺の4派が連合して経営することになりました。

一方、分離独立に反対した東寺・泉涌寺・勸修寺・随心院の各山は単称の真言宗を称して法務所を東寺に置き、高野派管長の古義大学林総理(学長に相当)の資格の剥奪と、古義大学林の引渡しを要求しました。

高野山側はこれを拒否しましたが、学生の多数は京都へ下山しました。京都側は東寺に大学林を設けて授業を始めました。ここに、大学林は京都と高野山に並立して、以来この両大学林はその正当性を争うこととなります。

明治34年(1901)、単称の真言宗も高野山の4派連合に参加して5派連合が誕生します。大学林は、真言宗各派連合大学と改称して再び高野山に置くと決めます。ところが、明治40年(1907)に大学は京都と高野山に、真言宗連合京都大学・真言宗連合高野大学として再度並立すると決しました。

掲載の蔵書印は、その真言宗連合高野大学時代のものです。「聯合高野大学図書館」とあります。激動の近代真言宗史のあゆみの一端を、この蔵書印は見せています。(つづく)

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
30	31	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	1	2	3	4	5

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31	1	2

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館

切り取り

『蔵書に記された先徳墨跡』は、今回お休みです!



#### 図書館通信

##### ●蔵書点検に伴うサービス停止について●

現在、蔵書点検中の為、貸出送本サービスを一時停止しております。(複写・レファレンスは受付ております)

4月4日(月)よりご利用いただけます。

長期にわたりご迷惑をお掛けし申し訳ございませんが、ご理解ご協力の程宜しくお願いいたします。

(編集後記)

暖かくなったり寒くなったり・・・  
春までもう少し時間がかかりそうですね!

(石原)



発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp